# 第４回和歌山市産業戦略会議　会議録

１　日　時　　平成２８年２月１６日（火）　１５：３０～１７：００

２　場　所　　ホテルグランヴィア和歌山　６階「メゾングラン」

３　出席者

| 委員名 | 役　　職 |
|---|---|
| 岡 田　亜 紀 | 菱岡工業株式会社 代表取締役 |
| 金 子　英一郎 | 日本政策金融公庫 和歌山支店長 |
| 島　　正　博 | 株式会社島精機製作所 代表取締役社長 |
| 谷 口　博 昭 | 一般財団法人国土技術研究センター 理事長 |
| デービッド・アトキンソン | 株式会社小西美術工藝社 代表取締役社長 |
| 細 江　美 則 | 太洋工業株式会社 代表取締役社長 |
| 吉 村　典 久 | 国立大学法人 和歌山大学経済学部教授 |
| 和 坂　貞 雄 | 和歌山県工業技術センター 所長 |

４　議題１及び議題２に係る会議録

| 発言者 | 意　　見 |
|---|---|
| Ａ委員 | まず、委員の皆様からの提案を色々と盛り込んでいただきありがとうございました。それを踏まえたうえで少しご意見を申し上げたいと思います。<br>教育に関わる者という立場から申し上げますと、もちろん大学との連携等は既に記述いただいていますが、これは少し中長期的な視点、かつ県との連携という前提での話になろうかと思います。例えばこの中で農業とかアグリビジネスといった点がありますが、そこに人を配置して、よりよいものをとなってきますと、もちろん大学は短期的なところで色々ご協力ができるのかなとは思いますが、地域が好きで地域で中長期に渡りビジネスをやっていくとなると、インターンシップの強化の延長として、中高生に対してどういう支援、サポートをしていくのかといったあたりは人づくりの観点から重要ではないかと思います。今は農業高校と言っても田んぼをどうするというような話だけではなく、職へのつながりを非常に強化されているとか、家畜ということではなく愛玩動物といったところをどう飼育していくのかといったところに力を入れているということも聞いており、色んな形での動きがあろうかと思います。<br>教育の分野、中等教育の分野と産業振興をどう結び付けていくのかということも、教育という面から注目してもいいのではと思いました。<br>それから、マネジメントの観点からこのビジョン（案）について申し上げますと、７５ページでＰＤＣＡサイクルの記述があり、具体的に回していくというところまで配慮いただいていると思いますが、ＰＤＣＡを回すにあたってのポイントは、「このサポートは効果が出なかったのでやめる」といったことをどこまで書き込むかです。例えば、何年かで区切って目標を立て、達成できなければ潔くやめるという「撤退の基準」のようなものをどう取り込んでいくのかを検討してもいいのではと思います。<br>なかなか個別具体なことまで書き込むというのは難しいと思いますが、やはり撤退も選択肢であるというところは文言としてあってもいいのかなと思いました。 |

| | |
|---|---|
| Ｂ委員 | 日頃から県や市の方から色々な補助金について説明に来ていただき、機会があれば利用したいと思いながらそのときはピンとこなかったのですが、実は本社工場の敷地を買い上げなくてはいけないという事態になりまして、一度県の方から話を聞いてみました。そうしますと、壮大な補助はあるのですが、我々のような中小企業には当てはまるものがなかなかなかったりしました。これは県のことになりますが、日本で一番というような非常に大きな額の補助もありますが、そういうものは大企業でないと関係ないのではないか、大企業はもちろん大事ですが中小企業の方が多いと思うのでそこが使いやすい方がいいのではないかという感じがいたしました。<br>今度はまた、和歌山市にも相談したいと思っているところですが、せっかく制度があっても実際利用する側としてはものすごく遠い存在のものが多いなということを感じました。せっかく予算を設けていただくのであれば、より雇用を生んだりする場合には、もう少しご協力いただけるとありがたいなということも感じました。<br>ビジョン（案）の７３ページの事業者・産業関係団体との連携というところに経営基盤の安定という文言があった関係で、少し申し上げました。<br>それから、今おかげさまで本業の方は忙しくさせていただいていますが、人材の確保が非常に難しく、合同面接会等にも参加しますが、新卒の方等とのマッチングにはなかなか繋がりません。私たちも企業を知ってもらおうということで、なるべく市や学校から企業見学の依頼があった際には受入れをさせていただきますが、それでも下請け製造業というところにはなかなか就職していただけないのが実情です。<br>本業の方は大変忙しく、新しい仕事にも取り組みたい中で、残念ながら雇用が進まない、やっと雇用できても続かない方が多いというような課題がございます。<br>次に、ビジョン（案）の概要９ページの女性などが働きやすい環境づくりに関連してですが、私は今まさに出産を控えておりまして、これから出産した後の産休も育休も私は出す側で、私にはそのような休暇は与えてもらえません。いかに早く仕事に復帰するかということに悩んでおり、やはり夫の協力なしでは難しいなと思っております。国も男性の育児休暇の取得率を今の２．３％から１３％に上げようとしている中で、県庁で育児休暇を取っている男性が何人いるかを調べると２人しかいないようです。今、夫にも育休について話をしたりしますが、実際、男性が育児休暇を取得していくというのはなかなか難しいことなのかなと感じる面もあります。自分の会社の社員が奥さんの出産で休むと言われると、休んでほしいという半面、困る部分があるのも実際のところです。男女の格差についても、女性としては格差をなくしてもらいたいと思う一方で、女性の方がどうしても色々と休むことが多くなるので、仕方ないかなと思う面も実際はあります。矛盾はしていますが、改善してほしいものの、現実問題としては難しいのかなと感じたりもします。<br>もう１点福祉の関係で、産業とは直接関係ないことかもしれませんが、私はＮＰＯで障害者の就労支援もしており、介護の世界等もそうだと思いますが、そこへのサポート面など、やっと充実してきたと思った頃に制度がコロコロ変ってしまいます。雇用をやっと生めるようになったと思った頃にサポートする職員のハードルが上がってしまったり、資格を持った人の採用が困難になってしまい、その人を採用できず、 |

| | |
|---|---|
| | 補助が下りないなど、どんどん苦しい状況に陥っているというのが現状です。<br>　そういった福祉の面は、国の決めている制度でありながら市町村単位でのバラつきもありますので、和歌山市としてどうしていくかというところも今一度見直していただけたらと思っています。 |
| Ｃ委員 | 　良くまとまってきていると思います。<br>　私の方からは、４年に１度の繊維機械のオリンピックであるＩＴＭＡ展が１１月にありまして、その情報を出させていただきたいと思います。<br>　和歌山の丸編み機は１００年余り前に和歌山に入り、和歌山で育って、一時は日本の丸編みニットの６０％以上の生産をしていました。手袋についても有田の川端力松さんが１００年前に日本で初めて手掛けました。そして、全国の６０％以上を和歌山で作っていたということになります。早く取り入れて新しいことをすると、活性化に繋がってくるということになりますが、今回のＩＴＭＡ展で発表したのは、糸からそのままドレスができる、セーターもできる、そういうものであります。<br>　労働集約型であった繊維産業をデザイン力重視に変え、ＩＴを活用することで、ネット販売などによって産業や流通も大きく変わってきます。今は流通産業でも繊維に関しては、百貨店をはじめ専門店で売り出しますと、３週間程経てば後はセールというふうにしてやっていきますので、販売・流通のロスがたくさんあるわけです。<br>　ミシンは１人で２台３台と動かせるわけではなく１人で１台です。そうすると、人件費が高い国では採算が合いません。日本の繊維産業は、昭和４０年代後半までは、対米輸出で外貨を稼いだ時期がありましたが、日本には色々な産業ができ、より付加価値の高い産業へとシフトしていきました。繊維産業は４０年代後半には、韓国、台湾、香港へ移り、１５年程するとそこでもできなくなり、中国で生産をし始めました。それで世界の工場と言われるようになったわけですが、人件費も高くなり、一人っ子政策で少子化になるなどといった状況下で、中国は世界の工場と呼べなくなってきました。そして次は、ＡＳＥＡＮの方へ移動していかないといけなくなっているというのが現在の繊維産業です。<br>　それはなぜかと考えてみると、やはりミシンがあるからです。ミシンをなくせば産業として労働集約型産業から知識集約型産業になります。コンピュータグラフィックスを使ってデザインからヴァーチャルサンプルがすぐにできますので、今までは１００時間程かかった作業が１時間でできてしまう、そういうことになればもう日本で作ってしまった方が良いわけです。<br>　実際にサンプルを作らなくても、ヴァーチャルサンプルが使えますし、ＩＴを活用した販売もできるわけですから、全く新しい産業が和歌山からできるというのを、この間発表したような状況です。<br>　世界中からメイドインジャパンの品質は素晴らしいと評価を受けますが、今ニットの製品は６億枚程が輸入され、国内で作っているのが４００万枚以下と、約０．７％しか作ってないことになりますので、作っている量はほぼゼロに等しい状況です。<br>　そのような状況のもと、大学でも服飾学校でも、無縫製の教育は世界中でほとんど |

| | |
|---|---|
| | されていません。そこで、一番近くに和歌山大学のシステム工学部にデザイン関係の学科がありますので、そこのコンピュータ、エンジニアリングの技術とデザインの感性を融合して、さらにそれらが磨かれたり、その関係のインターンシップやアルバイト等もできると、ビジネスにつながり、ひいては新しい産業を和歌山から世界に発信できる可能性が十分にあります。<br>今年の春に、よみうりランドで自分の足で自転車のペダルを回したりした動力で、編み機を動かし、自分の手袋、ニット、ドレスを作れるアトラクションを発表しました。こういったことも、和歌山大学や和歌山にある染色工業、メリヤス、そのあたりとのコラボレーションでやっていければ、また新しい産業が和歌山でできるのではないか、大きなイノベーション、産業革命という感じのものにつながっていくのではと思います。その際は、他の所が先にやりだしてしまって、せっかく和歌山で生まれたものを世界へ発信するのが遅れてしまっては、後の祭りになるので、そうならないようにすることが重要だと思います。<br>糸からそのまま１時間後にはニットセーターが、ドレスでは約９０分でできます。ドレスと言いますとエレガントなドレス、フレアがあるとかいうものでしたら仕上がるまでには素材の５０％以上がカットロスになりますが、縫わなくても糸からそのままできるとしたら、産業として新しいものを輸出していくこともできますし、和歌山でも自分でデザインしたものを作ってもらおうというのができてくると、「産業と観光」につながるというような可能性も十分に出てきます。<br>ミシンなしでも作ることができるとなれば、感性のある人、やる気のある人であったらビジネスはできますし、無縫製の機械も１年も経たずに償却できるというところでありますので、和歌山大学にせっかくシステム工学部という感性と産業の両方を備えた学部があり、さらに経済学部もある、そこで新しい人が新しいことを始めると新しい産業につながり、和歌山がもうひとつ進化するのではないかと思います。 |
| Ｄ委員 | まず印象ですが、これまでの意見などを踏まえてよくまとめていただきました。盛りだくさんの内容となっており、資源を集中的に投下していかないと、あれもこれもとなって、すべてが中途半端になる可能性があるので、他の委員もおっしゃいましたが、やめる勇気と撤退の基準は必要かと感じました。<br>次に、国の施策でも「くるみんマーク」、いわゆる子育てサポート企業については、助成していこうという流れが多く出てきています。市内にどれだけの企業があるかは承知していませんが、そういった企業に対して補助・助成をしていく、そういった企業を増やすという観点で何かなさるのもひとついいのかなと思います。<br>福祉の関係で、市町村によってバラつきがあるのであれば、逆にそのバラつきがチャンスでもあり、他と違う尖った施策を出せば一つの売りになると思いました。<br>それから、私もフォルテワジマで自転車を漕いで息子のマフラーを作りました。デザインも自分でできます。こういったことを子どもたちが体験することで、興味を持ち、次にこういうことをしてみたいというのが生まれてくる、すごくいいものだったなと思いました。<br>こちらのビジョン（案）の概要版でいくつか私の見てきた感想等を述べさせていただきたいと思いますが、産業戦略１「既存産業の更なる成長促進」については、やは |

| | |
|---|---|
| | り県の動きと今後も連携をとって進めていく必要があると思いますが、そのような書きぶりになっていましたので、ぜひそのように進めていただけたらと思います。<br>１－２のブランド化ですが、自社ブランドの創出はもちろん大切かとは思いますが、やはり地域ブランドとして連合体でブランド化を進めていくというのも、もうひとつ必要かもしれません。皮革の方が「きのくにレザー」として売ってきていたり、先日は和歌山ニットのタグを作ったり、そういった形でひとつの産地としてブランド化する、集合体でやっていくことも強みになっていくのかなとも感じました。<br>それから、４ページの今後想定されるプロジェクトの関連で、図書館を今度また和歌山市駅のところにお建てになると思いますが、各地の図書館を見てみますと、これをしてはダメ、これもダメというふうに、利用するのに敷居が高くなる傾向がよくあります。人の交流の拠点として期待する施設ですので、ここはひとつ、公設民営といった形で民間に運営を任せてやってみるのもひとつかなと思いました。<br>それから戦略２の２－２、県内の特産品を取り込んだ６次産業化のところで、ときどき感じることは、生産者の立場、あるいは加工する方からすると、この商品はすごくいいんだということをおっしゃいますが、売れてこそのものなので、ぜひとも出口の方、売ってくれる方、売り先の意見を取り入れる機会、パッケージのやり方ひとつで売れ方が格段に変わるという例もございますので、ブランディングにあたっての磨き上げをアドバイスしてくれる方とのマッチング機会などマッチングや意見を取り入れる機会も作っていただいた方がいいのかなと感じました。<br>その次の「観光業の稼ぐ力の強化」で、「観光業」となっていると、市民の方は「観光‘業’の方の取組」と思ってしまいかねないので、「観光による」などとして、観光によって稼ぐ力を作ろうという方がより良いのかなと思いました。先日、市長も出席されていた講演会で山田敬一郎さんもおっしゃられていましたが、観光資源の中には「人」というのもあるはずで、このＤＭＯにも関連しますが、デスティネーションはタウンであるとかエリアであるとか、そこに住む人々がやはりこういったことを理解して、一緒になって協業していかないと、うまくいかないと思います。ある本で、元青森市長の佐々木さんという方が、経済循環というのは協業で生じる、行政だけでできるものではない、そしてこの協業というのは市民の自立があって初めて可能になるということをおっしゃっています。ＤＭＯはデスティネーション、マネジメント、あるいはマーケティングというよりも、市民もその当事者の一人であるという意識を持ってもらうような仕組みにして、まちづくりと一体となって「まち自体がミュージアム」なんだというような意識、シビックプライドというのを出していくことが必要なのかなというふうに感じました。<br>想定されるプロジェクト③、その次の④も含めてですが、こちらに関連して先日、創業支援のネットワークの方で、ビジネスコンテストを行いました。約４０のプランの中からファイナリスト６人の方がプレゼンを行いましたが、観光関連で２つ、リノベーション関係で１つ、子どもの教育という観点で１つ、日本版ＣＣＲＣや高齢者に関係したプランが１つと参考になりそうなプランでした。市民の人たちにも問題意識を持ってビジネスプランを考えている方が多くいらっしゃるのを感じたところです。<br>それから、プロジェクト③の夜の観光の推進ですが、最近またインバウンドの方が見えられていますけども、到着時間の関係からでしょうか、街に出てくる時間は２０時など遅いようです。今年はイルミネーションをかなりあちこちでおやりになっていて、あれはすごくいいなと思いながら見ています。華やかさがありますし、インバウンドの方が夜出てきたときに真っ暗な夜というよりは、やはりああいうのがあると違 |

| | |
|---|---|
| | うと思います。<br>　また、賑やかさを出すといった点では、まちなかで夜に集えるようなスポーツカフェみたいなものがあるといいのかなとか思います。もしもっと大きくやるのであればもっと大きな仕掛けが必要かもしれませんが、イルミネーションとか夜に明かりのあるような取組を今後も引き続きやるのが良いのかなと思いました。<br>　それからプロジェクト④のまちなか・まちづくりの拠点について、お考えになっていると思いますが、やはりまちの中心部を活性化するという点が大事ではないかと思います。よく例に出るポートランド市であるとか欧州の城郭都市というのは大体まちの中心部に色々な施設が集約されていて、そこに集まれるというふうになっていると思います。和歌山市を鳥瞰してみますとお城を中心としたまちづくりというものが見えるような感じがいたします。<br>　今回を機に、市民に対して和歌山城への愛着と和歌山市の中心市街地への愛着をもう一度取り戻していただくような具体的なプロジェクトというのを立ち上げてみるのもよろしいのではないかなと思いました。<br>　以上、今後戦略に基づいた具体的な事業の検討を進めていくうえでのご参考にしていただければと思います。 |
| Ｅ委員 | 　たくさんのご意見いただきありがとうございます。<br>　とりあえずここで切らせていただいて、市の方から今までの所でコメントや状況説明等ございましたらお願いします。 |
| 市長 | 　ありがとうございました。ごもっともなご意見ばかりでその通りだと思います。<br>　インターンシップ等については、小中高生ともに大事で、職場体験や１日インターンシップ等、そういった形で小さい時から和歌山市の良い産業を知っていただけたらなと思っており、そういったことを実施してまいります。<br>　それから、ＰＤＣＡでやめることをどう書き込むかということについても、おっしゃる通りで、やめる勇気というものを持たなければいけないので、ＰＤＣＡもしっかり機能するようなＰＤＣＡにしていきたいと思います。<br>　次に、中小企業への補助ですが、実は和歌山市は結構用意をさせてもらっています。もちろん大企業については県と連携させていただいていますが、和歌山市も既存企業、特に中小企業向けという部分では、今年度多く利用していただいており、９件になります。それほど大きくなくても用地費に対してや、新規雇用や設備に対して支援させていただいていますので、また是非ご利用いただければと思います。<br>　また、女性が働きやすい環境づくりに関連して、イクメンについては、今年も行っておりますし、来年度新たな取組も打ち出していこうと思っています。特にイクメンに関しては、上司の方の理解が必要ということで、育ボスの養成ということを、まずは隗から始めて、市の職員をはじめ、民間に呼びかけていきたいと思っています。<br>　それから、先日島精機製作所が紹介されたカンブリア宮殿を拝見してすごいなと、今まで熱意と技術と思い切りのよさで成長してきたんだなという感じを受けました。ぜひ、大学のノウハウや学生の力も含めて新たな産業を興していければと思います。<br>　Ｄ委員からは多くのご意見をいただき、ありがとうございます。<br>　和歌山ニットについて、今後、集合体としての応援は大事だなと思っておりまして、中小企業庁のふるさと名物応援宣言というのを活用して、ニット分野を応援していきたいと思っておりまして、応援宣言することによって、国の支援を受けられるという |

| | |
|---|---|
| | ことのもありますので、これからも色々な集合体ということを含めてやっていきたいと思っています。<br>図書館については、今までの読むだけ、自習するだけではなくて、騒いでも良いであるとか、人と人が本を通じて触れ合える、まち歩きの拠点にもなるというような色んな楽しみ方があると思います。特に子ども達が放課後に遊びに行くところがないと言うことも多いので、子ども達も来やすいし、大人も来やすい、そういった場所にしていきたいと考えています。 |
| Ｆ委員 | 全体に目を通しまして、素晴らしくまとめられていると思います。<br>あまりこれという点は何もないですので、このままで良いかと思います。<br>私としては、ここまでの何回かの会議での意見が十分反映されていると思いますので、これからはやはり実行をどうするのかというところが一番大きいことは、申し上げるまでもありませんが、思いました。<br>先日、和歌山市の観光関連のホームページ見てみましたが、内容云々というよりは、例えば観光協会の外国人向けのＷＡＫＡＹＡＭＡ ＣＩＴＹ ＮＥＷＳで、２０１３年に書き込み３件のみ、３月２件、８月１件、１４年は６件だけで全部３月、１５年は５月に１件のみということで、作るのはいいですが、やはり観光というのは情報発信を常に行っていないといけないものですので、こういうことが続いているのは少し残念な感じがします。<br>私としては、今後をどうするか、色々な磨き上げをどうするかという点に目が行っておりますので、このビジョン（案）の内容に関してはこれで十二分だと思います。 |
| Ｇ委員 | 事務局の方でこれまでの会議での意見を踏まえてまとめていただき、農・工・商、産学等、色々な切り口で市をどうしていくかということがよく書かれていると思います。ぜひこれを実行していってもらいたいですが、総花的にならないように絞っていくことが大事かと思います。予算もありますし、他府県、他都市も様々な事を考えると思いますので、そのあたりで和歌山らしさを出していただきたいと思います。<br>ひとつ私が思いましたのは、先ほどの話にもありましたように、カンブリア宮殿を見ていましたら、島精機様の編み機を使ってアメリカの大学がウェアラブルの研究をしているというのがあり、すごいと思ったのですが、和歌山には繊維関連、捺染関連企業が多く集積しています。和歌山で産業誘致をやる際に、様々な工業を対象にすることはもちろん大事ですが、例えばシリコンバレーや九州のシリコンアイランドのように、また光産業の集積地になっている浜松のように、そういう一つのモノ、例えばウェアラブルエレクトロニクスなどに特化した特徴を出すのも手かなと思いました。そうすると世界中からそれをやりたい研究者、企業家が来県します。そうなると大学などにも関連した講座ができるなど、盛り上がっていくのではないのかなと思います。工業全体で考えますと、日本国内には様々な分野で各々の強みをもった地域がありますので、和歌山にひとつの特徴を持たせる、例えば、ウェアラブルの研究は今後盛んになりますし、先程にも言いましたが、和歌山は繊維産業が盛んで、捺染企業もあれば編み機関連企業もあるということで、例えばウェアラブル産業に焦点を絞ってひとつのゾーンを作っていくのもいいのではと思います。そうすると、集積効果が非常に出てくるのではなかろうか、ウェアラブル関連の研究や業務をするのであれば和歌山へ行けば良いというようになれば素晴らしく、繊維関連企業の多い和歌山のポテンシャルは非常に高くなって行くと思っています。 |

| | |
|---|---|
| | 浜松が光産業の集積地になりましたが、そのモノ自体を作っていないから恩恵がないということではなくて、一つの産業を中心に色んな集積が起こってきてさらに色んな技術が芽生えていくことになるし、色々な会社が集まって集積効果が出てくるのではと思いますので、そういう切り口も考えていただければと思いました。<br>やはり何か特徴を出さないと差別化できないのではというのは常に懸念していまして、例えばウェアラブル等の研究をしたい学生や研究者が集まってくると、どんどん良い循環ができていくのではなかろうかと思いますし、当然その周りには繊維だけではなく、機械やエレクトロニクス関連の組み立てなど色々な分野の会社が集まってくると思うので、相乗効果がでてくるのではないかという感じはしています。<br>それから、これだけ色々な意見が出てきましたので、ぜひこの中で１つ、２つは実行していただいて、和歌山は素晴らしいところだと思ってもらえるまちにしてもらいたいと思いますし、我々企業の方もささやかですが、尽力していければなと思っています。<br>また、先ほど他の委員の方から人材採用の話がありましたが、本当に今は厳しい状況が続いています。ここへ来て中国経済の失速をはじめ色々な問題が出てきており、来年度も同じように厳しいのかどうかは微妙なところですが、総じて少子化になっていますし、基本的には新卒等を採用するのは厳しくなっているので、このあたりの施策も必要かという感じはしています。例えば高校生の頃から積極的に学生さん相手に和歌山の会社をＰＲしていくとか、地元に根差した人材育成も急務ではないかと感じております。 |
| Ｈ委員 | 前回のビジョン素案では違和感を覚える部分も多少ありましたが、今回はそれもなく、うまくまとめられていると思います。ただ、今までは骨格を作ったものであり、今後大事なことは、いかに肉付けをするか、すなわちアクションプランにいかに落とし込んでいくのかであると思います。その時には、専門家の意見を聞き、十分に意見を反映させることが必要です。<br>市の産業となると、観光を含むサービス業、製造業と大きなものがあります。製造業であれば化学業界や機械業界など業界がありますが、観光業では業界があるようでないというところだと思います。それからかなり広い分野の方々が関わると思いますので、行政が十分にリードをとって展開していかないと、なかなか進んでいかない、すなわち総合的に戦略的に進めていかないと、うまくいかないのではと思います。<br>製造業のところで、皆さんの意見のなかったところで述べさせていただきますと、概要の５ページ、２－３の企業誘致の戦略について、これは県の産業技術戦略会議でも述べさせていただきましたが、排水処理など静脈のインフラが非常に大事だと考えています。あまり目立たないところですが、企業が新しく工場を造るとなったときに、水があるか、排水処理がきちんとできるかということが基準になると思います。<br>先日、和歌山市の下水処理場を見学させていただき、かなり老朽化しているなというのが印象ですが、その中で新しい良い取組をされていました。下水処理から出てくる汚泥は通常焼却処分をするため、結構な費用がかかりますが、その汚泥を使って電気を作るという取組をされています。こういうことは積極的に市で取り組んでいただきたいですし、そうすると下水処理場は新しく生まれ変わり、新しい設備も入ってきます。こういうことを推進していくことで、静脈インフラの強化にも繋がるのではないかと思います。<br>次に、３ページにあるコネクターハブ企業や伝統産業のブランド化などについて、 |

| | |
|---|---|
| | これらをどのようにして育てていくかということで、私ども工業技術センターのＰＲにもなりますが、一つ紹介させていただきます。工業技術センターの第３次中期計画についてですが、県の産業技術基本計画がなかなかまとまらなかったので、公表が遅れていましたが、県の方もまとまりましたので、私どもの計画も公表させていただいております。その中の目玉として、「オープンラボ構想」というものがあります。どういうものかと申しますと、より企業の皆様方に工業技術センターを使っていただく機会を創ろうとするのを主眼にしたものです。コネクターハブ企業やニッチトップ企業となりうる企業をより支援できるような形にするということです。その中で、大きくはものづくりに対するオープンラボというものを二つ作ろうとしています。<br>一つ目は、実際に動いていますが、スマートものづくりということで、コンピュータを最大限に活用したものづくりをするというのが一つ。<br>そして二つ目が、和歌山県内の化学企業というのはかなり進んだところにありますので、ただ単にものを作るという面では、工業技術センターもなかなか応援できないというところがありますが、今般、計算化学を使った合理的なものづくりということで、計算化学に関する設備、コンピュータやソフト等を設置していくというものです。<br>また、伝統産業については、レザーと繊維の関係のレザー＆テキスタイルラボということです。レザーといっても県内で行われているのはなめしではなく加色ということで、いかに製品に近いところでアピールできるようにするかということですから、それは皮革だけではなく繊維にも共通しているわけです。レザー＆テキスタイルということで、そこをオープンラボにしていきます。どうするかと申しますと、今ある工業技術センターの設備を、繊維やレザーに関わるものを一か所に集約してより使いやすくする、これによって、県内の企業の皆様方が来ていただいて使いやすくなりますし、我々としても、相談等があった時にすぐに対応できるという形になります。<br>それから、食品についても、フードプロセッシングラボといことで、これもオープンラボ化して、企業の皆様方に使っていただきます。これは、企業ということが前提になりますが、我々が開発したラボスケールの内容をいかに、スケールアップしていくか、これは企業に行く前のところ、橋渡しのところを強化したいということです。このようにオープンラボ構想というものを工業技術センターの第３期の目玉として押していこうと思っています。<br>市からも企業の皆様方に十分にＰＲしていただきたいと思いますし、我々も、県や市など関わりなく、企業の皆様に役立てるような形にしていきたいので、「既存産業の更なる成長促進」というところで、うまく活用していただければと思います。 |
| 市長 | 観光面での情報発信は大事で、その内容についてはもっと重要であると思っているので、その点は十分に対応していきたいと思います。<br>それから、前回のご指摘いただいた外資系のホテル等の誘致について、今回この資料にもあるように、やっていきたいと考えています。<br>また、総花的にならないように絞っていくことが大事であるとの意見については、集中して、できれば特化したようなゾーンを創るなどしていきたいと考えています。元々和歌山は化学など特化している面がありますが、できるだけ集積効果を出せるような取組を進めていきたいと考えています。<br>人の採用がなかなか難しいとの意見については、市としても、大学卒業前の学生に和歌山市に来てもらって、市内企業を見てもらう、知ってもらうことが大事であると思います。東京を含め色々なところでの合同説明会もやっていきたいですし、地元で |

| | |
|---|---|
| | も企業を組み合わせで見ていただけるようにしたいと考えています。<br>　来年度のアクションプランが大事という意見ですが、ここはしっかり専門家の意見を聞いてやっていきたいと思います。<br>　また、製造業は静脈インフラが大事だと思っています。実は、和歌山市もそろそろ企業を誘致する場所がなくなりつつあります。今回も資料の中に入れていますが、現在、和歌山インター、和歌山北インターと２つのインターがあり、次にできる和歌山南インターと合わせて３つのインター周辺は内陸型の産業集積が可能ではないかと考えています。今は工業用地を造成する時代でもないので、静脈インフラを含めて、企業が立地を検討するときに、すぐに対応できるシステムが大事であって、そのためのゾーニングを検討していきたいと考えています。 |
| Ｅ委員 | 　委員の皆様からひと通りご意見をいただきましたので、私の方からも意見を申し上げたいと思います。<br>　各委員の皆様と概ね同じだと思いますが、事務局の方で、第３回までの議論を精力的にまとめていただいて、立派な形になったのではと思います。細かい部分ではまだ修正等残っていると思いますが、ここまでまとめていただいて感謝申し上げます。<br>　また、次はいかに実行していくかということになりますので、他の委員のご意見にもあったように、スピード感が大事だと思います。イノベーションのスピードも著しいので、やはり、スピード感を持って取り組むことが大事だと思います。よって、市長のリーダーシップ、マネジメント力に期待をしたいと思います。<br>　これまで４回の会議に出席し、今日も大勢の市の方が傍聴されていますので、傍聴されている方は、市長の直々の気持ちが伝わっているものと思いますが、市の内部でも４回通じて傍聴している方と傍聴されていない方とでは、認識にギャップがあると思います。ましてや、市民や事業者の方とはギャップがあると思いますので、そのギャップを縮めるための情報発信、コミュニケーションが大事であると思います。<br>　昨日、和歌山でタクシーに乗りましたが、運転手さんから「和歌山なんて、何をやっても変わりません」との話を聞きました。これではいけないわけで、市民をどういう形で産業振興に巻き込んでいくか、参加と責任、やる気という話がありますが、そういうところをもう少し工夫していかないと空回りになってしまいます。<br>　また、委員からも出ていた差別化の話で、情報というのは刺身みたいにすぐに食べないとダメで、すぐに真似をされる、検索をされてしまうものです。情報でも単なる知識ではなく、インテリジェンス、知恵みたいなところが差別化の“キモ”ではないかと思います。それから、真似をできないのが、歴史、文化、風土、環境です。これらはビジョン（案）の強み、弱みのパートで整理させていますが、こういう真似のできないポテンシャルの高いもの、伝統あるもので差別化を図っていくという点には留意していただきたいと思います。<br>　ここからは口幅ったい言い方になりますが、アベノミクスも地方創生も今までのやり方ではうまくいかないと思っています。それは、第１回目の戦略会議が始まる前の冨山和彦さんの講演で、グローバルとローカルの話がありましたが、ＧＤＰでいうとグローバルは３割で、ローカルは７割ですが、企業数でいうと９９％がローカルです。今、アベノミクスもローカルアベノミクスと言い、地方創生の推進も言われていますが、地方のことを本当に分かっていないとうまくいかない、もう少し、ローカル、地方に重心を移したような形にしなければならないと思います。それは何故だろうと考えますと、私も国の役人でしたが、役人に丸投げしてしまうと、採点しやすい処理に |

| | |
|---|---|
| | 走ってしまいがちです。<br>　そういう意味では、総合戦略は５か年の計画を立てていますが、予算が５年になっていない、単年単年の対応になってしまいます。即席栽培を否定するものではないですが、もう少し腰を据えて、種を巻いて寝かせて競争に耐えるような形に持っていかないといけないと思います。短期、単年度も否定はしませんが、短期と中期の良いかみ合わせが必要です。<br>　私は、今は少し国、行政が表に出すぎ、手を出しすぎ、過保護であると感じていまして、もっと地域なり、民にボールを投げかけないと、民は目覚めないと思います。これを変えていかないと、今まで和歌山市の産業戦略がうまくいかなかったのと同じことになってしまうので、そうならないように留意しなければなりません。<br>　また、撤退という話については、いずれそれも重要になってきますが、せっかくビジョンがこういう形で出来ましたので、抱えている資源、マンパワーを含めて、物事の長短、軽重をつけてやっていくということが大切だと思います。和歌山市は、県庁所在地で大きいので、一つのことだけでなくいくつものことを同時に大きく捉えていかないといけないと思います。<br>　少し口幅ったいことを言いましたけれども、ここまでまとめていただいたことに感謝いたしまして、これを実のあるものにしていただきたいという気持ちでいくつか述べさせていただきました。<br>　それでは、時間はもう少しありますが、最後に追加等ありましたら、どなたでも結構ですのでご意見ください。<br><br>　＜追加意見なし＞<br><br>　特段ご意見はないようですので、これで会議は終了にしたいと思います。<br>　最後に、微修正などの今後の作業につきましては、事務局一任とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。<br><br>　＜委員一同　了承＞<br><br>　それでは、事務局一任ということでお願いします。<br>　本日はありがとうございました。また、４回に渡り戦略会議でご意見いただきありがとうございました。<br>　委員の皆様には、これからもアドバイザーとして、末永くご意見をいただければと思います。 |